

千代田区から発信。

～妊婦さんと赤ちゃんのお口の健康を守ろう～プロジェクト

日本歯科大学附属病院 阪奈津子、代田あづさ、児玉実穂、鈴木麻美、横山知美、森口奈賀子、岩田良子

目 的

妊娠期の口腔ケアは、妊婦だけでなく、未来を担う赤ちゃんの健康につながる大切なものである。妊娠するとホルモンバランスが大きく変化し、唾液の分泌量の減少、悪阻や嘔吐により歯磨きがし難くなるなど、う蝕（虫歯）や妊娠関連歯肉炎（妊婦特有の歯周病）になりやすくなる。特に妊娠関連歯肉炎の悪化は、早産や低体重児出産のリスクを高めると考えられている。本研究では日本歯科大学附属病院マタニティ歯科外来 10 年間の来院状況と治療内容をまとめ、妊娠期に必要な口腔ケアを考察し、妊娠前からの口腔ケアと赤ちゃんの頃からのお口の健康の重要性を千代田区民に伝える。さらに、東京都 23 区内の妊婦歯科健康診査状況を調査し、より有用な健診方法を検討し、千代田区から、妊婦とお腹の赤ちゃんの口腔ケアによる健康増進について、発信・実現することを目的としている。

研究内容・結果

【研究1 日本歯科大学附属病院マタニティ歯科外来における 10 年間の来院状況集計】

日本歯科大学附属病院では 2010 年に日本で初めて“マタニティ歯科外来”を開設した。これまでに 700 人余りの妊産婦の歯科治療を行っており、今回 10 年間の来院状況について調査し、妊娠期の歯科治療の実態から必要な歯科治療について報告を行った。

来院患者は妊娠 8 週～産後数年経過し受診する患者もいた。妊娠中や授乳中となると歯科医師が歯科治療に躊躇し、紹介する場合が多い。マタニティ歯科外来開設当初は妊婦特有の口腔内疾患である妊娠関連性歯肉炎・歯周病・妊娠エプリース等が多くなることを推測していたが、実際に来院する患者の主訴をみると、55%がむし歯であった。（図 1）次いで多いのが歯周病、親知らずであり、一般的な歯科治療を要するものであった。今後日頃から、口腔内のことを相談し、安心して治療を受けられることのできる、かかりつけ医の重要性を広める必要があると考えられる。

【研究2 東京 23 区内の妊婦歯科健康診査調査】

東京 23 区を対象とし、2017 年度～2021 年度までの妊婦歯科健康診査に関するアンケート調査を行った。東京 23 区中 16 区から回答があった。受診率については、コロナ禍である 2020 年度以降、減少することが推測されたが、前年度と比較してもほぼ変化はなかった。多くの区では、母子手帳交付時や妊婦面接の際に全員へ案内を行っているが、受診率は約 33%である。これは、すべての妊婦へ妊娠中の口腔内の変化が早産・低体重児出産へ繋がる可能性があるということが、認知されていないため、と考えられる。妊婦歯科健康診査受診率を増加させ、妊婦さんとお腹の赤ちゃんのお口の健康を守るためには、こうした啓発活動が不足していることがわかる。今後産科での案内や、妊娠前からも意識してもらえるように、歯科医院にて啓発ポスターを掲示し、妊婦やその家族が少しでも口腔内への関心が高まることを期待する。

【研究3 妊娠期の歯科治療に関する学生調査】

日本歯科大学生命歯学部第 1～5 学年（637 名）を対象とし、妊娠期の全身的变化とそれに伴う口腔内環境の変化、および口腔ケアと歯科治療の必要性や注意事項についての講義を行い、その講義前後の理解度をアンケート形式で調査した。妊婦の歯周病は早産・低出生体重児のリスクがあることを認知していない学生が多いと考えられ、このことから、歯の知識のない妊婦やその家族はこれ以上に認知されていないことが考えられた。今後、我々歯科医師も含め、妊娠期の歯科治療の重要性をさらに広めていくことが重要である。

【事業1 スマートフォンのアプリでの Q&A の実施】

医師監修の妊娠・出産アプリ（Baby プラス[®]）の協力を受け、妊娠期や赤ちゃんの口腔内の疑問にそれぞれ答え、アプリ利用者から口腔の健康増進について、より理解度を深めていく。（図 2）

図 1 来院状況集計主訴

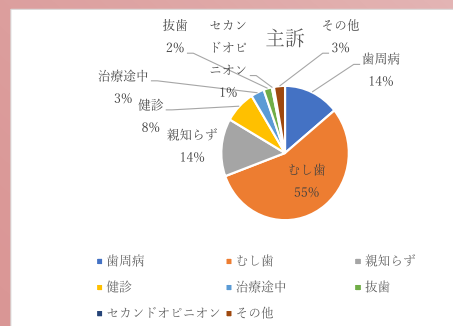


図 2 Baby プラス概要

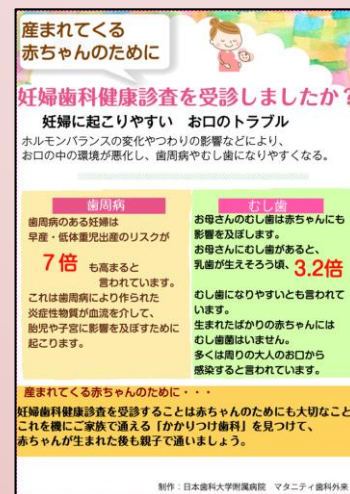


図 3 妊婦歯科健康診査啓発用ポスター

考察・まとめ

妊婦さんとお腹の赤ちゃんのお口の健康を守るためには、妊婦やその家族への啓発を行うことが重要である。そのために、今後も妊娠期から使えるアプリや両親学級、産科や歯科医院等に啓発ポスターの掲示等、様々な媒体で啓発活動をしていく。本事業は“～妊婦さんと赤ちゃんのお口の健康を守ろうプロジェクト”として、千代田区から発信し、全国へ広がり、口腔の健康増進に寄与し、さらに健康増進へ繋がれば幸いである。